

令和5年度 第1回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和5年度 第1回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和5年5月23日(火) 午前10時から正午まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎3階 会議室301
4	委員出席者	丸山委員、百瀬委員、森本委員、伊藤委員、金井委員、笹本委員、古川委員、城戸委員、三原委員(欠席:宇田川委員)
6	事務局出席者	橋渡教育長、三澤文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、豊科近代美術館清澤館長、田淵行男記念館兼飯沼飛行士記念館中田館長、高橋節郎記念美術館宮澤館長、穂高陶芸会館小倉館長、貞享義民記念館寺島館長、臼井吉見文学館平沢館長、逸見博物館担当係長、幅博物館担当主査、佐野文化振興担当係長、塩原文化振興担当主査
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	2人(うち記者 0人)
9	会議概要作成年月日	令和5年6月1日

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開 会 (文化課長)
- 2 あいさつ (教育長)
- 3 自己紹介
- 4 報告・協議

(1) 事務局より

- ・3月の協議会において、委員から質問のあった学芸員と職員の研修会、調査研究費についての案件についてご報告する。市が指定管理を委託している美術館・記念館については、全館、学芸員の調査・研究、研修費を令和4年度、5年度ともに予算に計上している。市博物館については、出張、研修、調査は県内で行う機会が多く、公用車で移動をするため予算化していない場合が多い。長野県博物館協議会の研修をはじめ、研修には出来るだけ参加するよう周知している。県外出張については、今後情報収集を行い、計画的に予算計上をしていく。

(2) 令和4年度各館事業報告(資料1)

- ・各館長から報告

■豊科郷土博物館

- ・総合的な学習支援に力を入れた。豊科北中学校の総合的な学習には特に深く関わってきたが、年間ですらできるとしても1校で精一杯。関りが深まるほどに業務に負担が出てくる。今後どう継続して行くかを検討したい。

■豊科近代美術館

- ・日展や土門拳展など特別展で入館者は増加。常設展入館者の伸び悩みは、宮芳平生誕130年記念展等を通して底上げをしていきたい。
- ・子ども向けの取り組みについては、移動手段が大事で市のバスを確保してどう来ていただ

けるかにも関わってくる。親子で参加できるものを充実させたい。

■田淵行男記念館

- ・入館者目標 6,000 人に対し、実績 5,479 人で到達しなかったが、1月5日から3月3日まで棧橋修繕のため休館していたことも要因であろう。
- ・子ども向けの取り組みとしては、ちくに生きものみらい基金充当事業を活用した自然観察会、こども自然観察教室としてむしの会、各種イベントを行い、多数の参加者があった。

■飯沼飛行士記念館

- ・入館者の目標値は達成した。常設展がメインのため飯沼飛行士をより若い世代に知っていただくため、学校ミュージアムへの参加、学校の学習支援や『豊科の宝』講座等を行った。

■穂高陶芸会館

- ・個人客に対するアンケート結果では満足度が 90%以上。リピーターが 24%。作陶体験、入館者の目標値は達成した。親子向け教室の利用者が非常に多い。
- ・予算科目の原材料費は、物価高騰により決算額が 5 万円増となったため、他の科目より流用した。

■高橋節郎記念美術館

- ・常設展は計画通り。特別展では高橋の足跡を顕彰する良い機会となった。開館 20 周年記念図録は、刊行に向け引き続き編集作業を継続していく。
- ・入館者目標設定に甘さがあった。冬期の入館者対策が必要。沈金体験の希望者が増加傾向にあった。

■貞享義民記念館

- ・入館者の減少に対して、市内外でチラシ配布、常設展示の解説を入館者に対して必ず行うなど積極的にアピールし、臨地講座、出前講座、研修受入れも行った。
- ・貸館で非営利にて行う展覧会等の入館者が多くを占めているが 30~40 代の若い世代にどう興味を持ってもらうかが課題。

■臼井吉見文学館

- ・市の指定管理から直営となって 4 年になるが職員は常駐しておらず、入館した希望者に対して文書館職員が説明を行っている。年 2 回の講演会への関心は高い。引き続き臼井の顕彰活動に力を入れていく。
- ・堀金図書館との連携を今後図っていきたい。

■穂高郷土資料館

- ・常駐する学芸員がいなく展示に変更がないため入館者は伸び悩んでいるが、鐘の鳴る丘集会所の機織りワークショップ等との相乗効果を生み出せるようにしていきたい。

■博物館担当

- ・豊科郷土博物館の耐震診断を行い、建物は堅牢であることが分かった。構造は良いが、設備が良くないため、引き続き建物を使っていくのであれば改修を検討しなければならない。

■美術館博物館連携事業

- ・文化庁の補助金を活用して児童向け、一般向け事業を行った。連携することで資質向上につながった。オンラインを活用した事業は今後改善しながら実施したい。

・委員より意見

委員 豊科近代美術館に教育効果を上げるために体験しながら鑑賞できる活動とあるが、具体的にはどういった活動なのか。市のバスを利用して中学生を展覧会に連れてくるという発想が良い。豊科郷土博物館が総合的な学習で 10 回の授業を行ったことは見事である。他校ではできないのか。綿つむぎ体験は素晴らしい。

豊科近代美術館 五感を使った鑑賞、女子美術大学附属高校に対しては、彫刻に触れるワークショ

	<p>ップを行った。特別展に応じて絵を描くことを援助するワークショップなども企画している。</p>
豊科郷土博物館	<p>豊科北中学校での探求学習では子どもたちが変化していく。学習が終わると反省会を行い、町並みの変化について疑問や意見が出た。その後、東洋紡にも入れてもらった。こちらが関わるのは週1回が精一杯で、これを複数校というのは難しい。スポット的には関われるが継続するのは限界がある。</p>
会 長	<p>博物館の職員はみな非常勤にも関わらずよくぞここまでやっていただいている。自らを殺してまで義務感や楽しさと捉えてやっていただいている。こうしたことは当たり前と思っはいけない。協議会としては、事業をプラスしていくという事しか言っておらず、何かを減らしていくということは提案できていない。より良くする為には事業をプラスすることだけではなくて、学芸員たちが勉強する時間をどう作ったら良いか、研修費の問題などを含め考えていくことが、重要ではないだろうか。</p>
委 員	<p>博物館の報告書や紀要を読ませて頂いて、本当にやり過ぎていると思う。長期的な関わりをこれ以上増やすのは不可能。自身が経験した中では、教員が学べる場を設けて、博物館がそれを援助し教員を育てて行くという方向が良いのではないかと思う。博物館の担い手として、地域の方々が関わり、ボランティアではなく、市民学芸員の様な人材を育てて行くことに博物館が関わっていくのが良いのではないか。</p>
豊科郷土博物館	<p>三郷中学での総合的な学習に関わってきたが、現在学芸員の派遣は縮小している。学校の先生に引き継いでいきたいが、先生方は異動があり、内容がマンネリ化したまま引き継がれる場合がある。そういったところに友の会の皆さんに関わってもらいたい。</p>
委 員	<p>「昔の暮らし体験教室」は良い取り組みだと思う。以前経験したが、博物館から学芸員に来ていただいてお任せで、学校でやっておしまいではあるが、保護者の方が来て子どもと一緒に体験することはとても良いことだと思う。これをきっかけに博物館を利用する人が増えるのでは。</p>
豊科郷土博物館	<p>学校に道具を貸して、学校でやって貰うということをしている。30～40代の保護者が子どもと一緒に来館すると、博物館の雰囲気も随分変わる。</p>
会 長	<p>屋敷林フォーラムを主催する団体は、学校に出向いてできるだけ子どもたちに地域を案内して一緒に学習する活動を続けている。一方で、学校はカリキュラムが一杯である中でどう組み込んでいけるかが課題である。地域の問題を子どもたちと密接な関係を持ちながらどのように考えて行くかを、今後大きな課題として考えたい。</p>
委 員	<p>提案がいくつかある。一つ目は「任せろ」。市内にふるさと安曇野応援団、案内人クラブなど民間の任意団体があり、学校での探求的な学習を県の支援金を元に数年前から行っている。教員、学芸員の枠を超えたところで探求的な学習が成立している。教育委員会で条件整備など踏ん張っていただきたい。</p> <p>二つ目に、特化した内容で「精選する」。夏休みを中心にイベント数が多く数を増やせば良いというものではない。貞享義民記念館では人権を扱う学習ができる。三郷村誌では近世農村における人権状況を前向きに評価している。また拾ヶ堰は、堰から直接水を供給していた所以外に、(烏川の水に余裕が出来て)標高が高いところでも一気に水の供給が増え、水田開発が進んだことがある。(拾ヶ堰の開削では堰より上の人も下の人も皆が用水を使えるようにしたと考える。) 「皆で」という意識も取り上げるべきことでは。</p> <p>三つ目は「応援団の充実」。135名の友の会会員は、様々な方に横断的に入ってい</p>

	<p>ただいていて、友の会組織と館が最も有機的な繋がりが出来ているのは重要。これを例に、一緒に活動できる応援団を充実させ、今後新博物館構想、市誌編さんも含めこの地域の歴史や文化をどう維持していくかを考えて行くべき。非正規職員のみで維持していくのには限界がある。</p>
委員	<p>紀要など文字情報である特化したテーマの郷土博物館、視覚情報に特化した美術館、文字情報で接点を持つ文書館が、最終的に生活の中でどう生かされるかである。SDGs の考え方に寄せればそれぞれの便利な生活環境が当たり前だと思っているが、人間の持つ生き方に矛盾を感じたりすることも大事である。美術館・博物館・文書館様々な立場の人たちが一緒に考えて、自らの生活体験をぶつけ合って、総合的な教育環境を作っていくことが大事なのでは。</p>
委員	<p>松本市の施設とイベントがバッティングするようなことが往々にしてある。計画が分かり次第、出来るだけ早めに広報して欲しい。</p>
会長	<p>博物館は安曇野市だけではなく連携していかななくてはならない。今できる限りのことをやっていただきたい。</p>
委員	<p>近代美術館の、安曇野に直接ゆかりのない作家をどう顕彰するか。例えば高田博厚は碌山以降の近代彫刻としての文脈もできる。宮芳平は現在関心が高まっている諏訪地域の版画運動の枠組みの中で、戦後安曇野での版画運動など大きな括りでみると美術館・博物館の間で良い企画が生まれるのではないかと。近代美術館の歳出の文化費はどのような内容か。事業のスリム化の必要性が出ている。淑徳大学の「人名を冠した施設の現状について」の調査研究への協力とあるが、こうした研究成果は興味深い。今後、個人顕彰館の多い安曇野では多数の館を維持できるのか、また個人顕彰が成り立つのか、今後の博物館構想等と併せてこうした研究が契機になっていくのでは。年間スケジュールを一堂に見られるのは良い。ただし入館料について、料金設定はどのように生まれるのか。来場者が限られている場合は、無料入館者によって成り立っている場合は入館料無料でも良いのでは。貞享義民記念館は、その主旨からしても無料でも良いのでは。</p>
豊科近代美術館	<p>文化費は、展覧会運営の中では権利関係、額の購入等様々な支払の発生があり明確に分けられないものがあり、総合的な支払いをしている場合がある。</p>
委員	<p>内容は察するが、「文化」という文字に含まれてしまうと分かりづらい。</p>
会長	<p>説明は、カッコ書きでもよいので入れていただきたい。</p>
事務局	<p>以前、受益者負担の観点から入館料は安すぎるという指摘があった。事務局としてはなるべく料金据え置きとしてきた。税金で上がったところもある。現在は議論をし直すと、入館料が上がる方向性になる可能性もある。そもそも博物館法では入館料は基本的に無料となっているため、職員の負担も考え状況に応じ、今後無料化についても検討したい。</p>
会長	<p>本来博物館は無料。図書館は利用料無料で市民が図書館に行くことで文化レベルが上がるということを考えると、本来博物館もそうあるべきである。急激な変更は難しいだろうが協議会としては利用しやすい環境にしてほしいという意見を持っていきたい。</p>
委員	<p>ヨーロッパの美術館に行くと、子どもが模写をする、絵の具を広げても良い環境にある。安曇野でもすでに取り組んでいるのか。</p>
会長	<p>美術館博物館は市内の子どもたちの入館が無料。できるだけそういった環境になるように努めていきたい。</p>
委員	<p>学校として子どもたちが様々な場面でより地域のことを深く理解するために、博物館の皆さんに力を貸していただいてありがたいが、負担になっていることに</p>

	<p>については教員側も努力していかないといけない。子どもたちが文化的な価値のあるものを理解し、受け継いで行く為に学校としてもできることを考えていきたい。</p>
委員	<p>俳句の会が、美術館博物館を訪れて句を作るというお話があった。「館を訪れて吟行」という企画を提案する。もう一つは個人が持っている作品を、無料で出展してもらい、紹介するという企画はどうか。「とあおり」「とうみ」を壊して焚き木にしている光景を目にした。ほかにも蚕棚に入れた竹籠など。いずれも博物館に必要なものではないか。</p>
豊科郷土博物館	<p>とあおりは珍しくなく、数多くあり場所をとってしまう。収蔵品には、展示品と体験に使用するものがある。それでも数は多くある。</p>
会長	<p>個人の所蔵展は東御市の梅野記念絵画館でも行っている。絵画の運搬には美専車を使用するなど、費用の負担もある。そうした運搬等の方策を含めて提案いただきたい。民俗資料については、空間を占めてしまい、一度寄贈を受けると燻蒸等管理しなければならない。</p> <p>今後も、建設的で具体的なご意見をいただきたい。</p>
8	その他
9	閉会
	以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。